

# 地場産業の技術を活かし、 先端技術分野で新たな事業の柱を!

広陵化学工業 株式会社

## プラスチック射出成型業としての歩み

奈良県には、戦後日本の経済復興と共に生まれ、石油化学の発展と共に成長してきたプラスチック産業が根付いている。中でも特に盛んな北葛城郡広陵町において、プラスチック射出成型業として昭和38年に創業し、食品用薄肉容器、日用雑貨などを中心に製造してきた広陵化学工業の東会長と中西社長に、会社の歩みから現在脚光を浴びている医療分野への取組のきっかけについて伺った。

「広陵町は奈良県の代表的地場産業の靴下や織物が盛んでしたが、創業当時、新しい素材として脚光を浴びていたプラスチックに大きな可能性を抱いて事業を始めました。昭和40～50年代は日常生活の場にプラスチック製品が急増し始

めた時期で、作れば売れる時代でした。経営は順調に伸びていましたが、石油ショックによる原料や販売価格の乱高下から、需給バランスが崩れ、利益が一気に吹き飛びました」

その後の不況により、同業他社との競争は、どんどん厳しくなってきたという。「不況の中で、自社独自のカラーを創造する必要性を学びました。自社の強みを整理し、食と医療は人の生命に関わり好不況に影響されにくいと考え、食品容器事業に加え、医療分野に力を入れることとしました。設備更新が必要となりましたが、地域金融機関の協力も得られ無事に取り組みことができました」

昭和50年頃には医薬品メーカーの依頼を受け、医療臨床検査用器材の製造を始めた。

「卵豆腐の容器のような射出成型技術の

みで製造できる食品容器事業は、競争も激しく、利益獲得が難しくなっていました。そんな中、友人のアドバイスもあり、プラスチックの技術を活かせる医療臨床検査用器材に進出しました。また、食品分野でも塩化ビニルからより安全な原材料にチェンジして、射出成型による薄肉の製品づくりを進めました」既存技術を応用した新分野開拓が成功したことで、早めの新分野進出や方向転換が戦略の一つとなり、その後の大きな飛躍につながっている。

## 医療分野への更なる方向転換

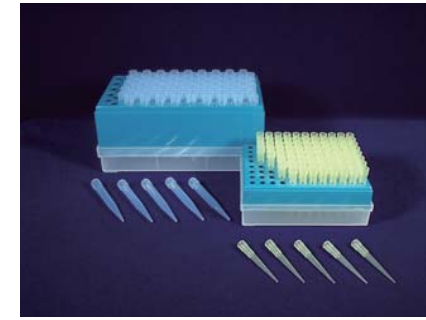
社長交代を機に、更に医療臨床用機器製造へと軸を移していくという。

「医療機器関連分野に力点を置いていきたいと考えています。現在の食品等7割、医療関連3割の状態から、5年後には比率を逆転させるのが目標です。医療臨床検査器材の中でも、チップやスピッツと呼ばれる器材では、世界レベルで戦える技術があり、今後は臨床検査機器の製造も視野にいられています」

平成22年末の医療機器製造許可取得を目指し、技術力や品質管理の向上を進めつつ、製造許可のための様々な準備を進めているという。

「臨床検査機器の製造には、高い技術が必要です。また、清潔で安全な製品を作るため、厳しい検査を課しており、クリーンルームの建設や新たな成型機等の導入など設備投資を行うとともに、ISO14000:2004も取得しました」

新分野進出のための技術開発・人材育成に加え、環境マネジメントにも配慮するなど、安心・安全のための環境整備も



『クリーンチップ』にも採用された『マイクロビレットチップ』



高級デザート用のインジェクションブロー容器



感染性物質を運搬する国連規格輸送容器『バリアパック』

怠りがない。

## 新製品開発への取組み

新製品開発にあたっては、様々な機関と連携・協力してきたという。最近では、平成20年に新連携支援事業の計画認定を受け、高級デザート等向けのブロー容器生産に取り組んだ。

「新事業展開を考える際に、自社の強みである射出成型技術と他社の強みであるブロー成型技術を組合せ、付加価値の高いデザート向け容器等を開発し、販路開拓・収益率向上を目指しました。新連携に取り組んだことで、人・情報を的確にとり、最先端の技術を他社と組み合わせることで、更なる発展が期待できると改めて認識しました」

現在の主力である食品関連製品は、『テクノパークなら』にある五條工場での成型機や高速曲面印刷機を設置し、地元の雇用を進めつつ、主に食品薄肉容器を製造している。

「五條工場では、自動化と徹底した品質管理を進めています。付加価値の低い卵豆腐の容器から、新連携事業で開発したデザートの容器等まで、24時間体制で生産する事が可能です」

また、医療臨床検査器材は、シャーレやスポイドだけでなく、世界に通用する

製品を開発してきたという。

「富士写真フィルムと共同開発に取り組んだ血液検査に使用される器材の『クリーンチップ』は、内閣総理大臣賞を受賞しました。また、国連規格に準拠した、感染性物質の輸送容器である『バリアパック』の開発にも成功し、世界でもこのサイズのものを作れるのは弊社だけです。開発には大変苦労がありますが、研究場で使われ、人の命を救うことに貢献できているのは大きな喜びです」本社工場にもクリーンルームを新設するなど、食品から医療へ、社会に貢献する新製品開発にチャレンジし続けている。

## 将来に向けた事業展開

多くの中小企業が課題とする事業承継については、会長の娘婿で営業に強い中西社長が承継し、技術に強い会長の弟の常務がサポートする体制が、円滑に構築できたという。

「五條工場新設直後に不況になり、経営改善を実施していく中で、営業に強い社長にバトンタッチしたことで、苦境を乗り越えました。現在は、会長と社長の役割分担も整備され、より良い経営体制が構築できています」

今後の課題としては、人材育成が一番にあげられた。

「現在の最重点課題は人材育成です。現場で一生懸命に仕事をするだけでなく、5年後何をするかを考え具現化できる人材となって欲しい。意識を変えていくためにも、大手医薬品メーカーのOBや技術スタッフによる新人教育も考えているところ」

事業については、前向きに考えているという。「奈良県は道路インフラ等が悪く立地面では不利と言われますが、逆に考えると倉庫の保管料等は安いのです。県内に内需が少ないなら、県外・国外に目を向けて仕事をとってあげれば良い。そのためにも、今後は更に医療分野機器・器材関連に力を入れていこうと思っています。先端技術分野で関連企業や地元の大学、支援機関と連携し、新たな事業の柱、ネットワークを作ることが重要です」奈良県のプラスチック産地は、県内需要も弱く、決して有利な立地ではない。そんな中、集積内のネットワークも活用し、どう次のステージに移っていくか一広陵化学工業の飛躍が期待される。



『テクノパークなら』にある五條工場。最新の設備が揃う

## 広陵化学工業 株式会社

〔住所〕奈良県北葛城郡広陵町中167番地

〔業種〕プラスチック製容器製造業

〔代表者〕代表取締役会長 東洋一

〔資本金〕9,000万円

〔従業員数〕70名

〔取材日〕平成22年8月30日(月)

〔取材対象者〕代表取締役会長 東洋一氏、代表取締役社長 中西勝氏

〔沿革〕

昭和38年5月 創業

昭和44年2月 広陵化学工業(株)に改組

平成5年5月 テクノパークなら工業団地五條工場完成

平成22年4月 第3回奈良県ビジネス大賞(優秀賞)受賞

東会長(左)  
中西社長(右)

